抜粋版

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza *No:42*

2009年8月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

molten®
For the real game

For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のないボールと
スポーツエキップメント・メーカーとして
つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 検定球
貼り・天然皮革、7号球

www.molten.co.jp
株式会社 モルテン 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7

目　　次

○　男子日本代表チーム準優勝 …… 3
　第１回東アジア選手権大会兼ＦＩＢＡアジア選手権予選

○　ＦＩＢＡアジア男子選手権大会概要 …… 6

○　ＦＩＢＡアジア女子選手権大会 …… 9
　開催期日と開催国決定

○　女子Ｕ－１９日本代表チーム世界選手権へ ……１０

○　ＷＪＢＬ帰化予定選手に門戸 ……１３

○　戦後初めての国際試合に出場して ……１４
　ハワイＡＪＡと対戦した方々の座談会

○　バスケットボールとの関わり ……稲垣 安二 ……２１

○　スタッツ（ＳＴＡＴＳ）について ……坂本 博 ……２４

○　会員だより ……山本　嘉宏 ……２７
　鷲沢　秀夫 ……２９
　川戸　政角 ……３１

○　全国シニア交歓大会 in ＹＯＹＯＧＩに参加して ……３３
　参加各チームからの感想文

○　インターハイ組合せ ……４２

○　事務局だより ……４４

○　プラザこぼればなし ……４５

男子日本代表チーム準優勝

第１回東アジア選手権大会　兼
ＦＩＢＡアジア男子選手権大会東アジア地区予選

［編集部］

６月１０日から愛知県小牧市で開催された表記大会において、男子日本代表チームが準優勝し、久しぶりに明るい話題となった。

今回からアジアにおける男子選手権大会に出場するには、各地区（東アジア、東南アジア、中央アジア、西アジア、湾岸）で予選を行い上位２チーム以内に入ることが必要となった。

東アジア選手権大会に出場したのは６ヶ国で、３チームずつ２グループに分けて総当りのリーグ戦を行い、各グループの上位２チームが決勝トーナメントに進んで順位を決める方式で行われた。

日本は、決勝で韓国に惜敗したものの、準決勝では中国を破る快進撃となり、８月６日から中国において開催されるＦＩＢＡアジア選手権大会への出場権を獲得した。

［代表チーム］

主なスタッフ

	氏　名	所　属
スーパーバイザー	倉石　平	日本協会
ヘッドコーチ	ディビッドＡ・ホップス	日本協会
アシスタントコーチ	後藤　正規	日本協会
通訳／アシスタントコーチ	清永　貴彦	レラカムイ北海道
アシスタントコーチ	水野　宏太	リンク栃木ブレックス
総括／マネージャー	川島　健太	ＪＢＬ
通訳	本永　昌生	日本協会

選　手

No.	氏　名	P	身長	体重	年齢	所　属
4	岡田　優介	ＳＧ	185	78	24	トヨタ自動車アルバルク
5	山田　大治	ＰＦ	200	105	28	レラカムイ北海道
6	桜井　良太	Ｇ	194	75	26	レラカムイ北海道
7	五十嵐　圭	Ｇ	180	68	29	日立サンロッカーズ
8	柏木　真介	Ｇ	183	80	27	アイシンシーホース
9	折茂　武彦	ＳＧ	190	77	39	レラカムイ北海道
10	竹内　公輔	ＰＦ	205	98	24	アイシンシーホース
11	網野　友雄	ＳＦ	196	87	28	アイシンシーホース
12	竹田　謙	ＳＦ	188	80	30	リンク栃木ブレックス
13	石崎　巧	Ｇ	188	85	24	東芝ブレイブサンダース
14	伊藤　俊亮	Ｃ	204	110	29	リンク栃木ブレックス
15	竹内　譲次	ＳＦ	205	98	24	日立サンロッカーズ
	平　均		193	87	28	

[予選ラウンド成績]

順位	グループA	KOR	CHN	HKG
1	KOR 韓　国		○70	○92
2	CHN 中　国	●62		○99
3	HKG 香港チャイナ	●71	●64	

順位	グループB	JPN	TPE	MGL
1	JPN 日　本		○78	○109
2	TPE ﾁｬｲﾆｰｽﾞ・ﾀｲﾍﾟｲ		●66	○99
3	MGL モンゴル	●65	●59	

[決勝ラウンド成績]

準決勝

グループ	チーム	1P	2P	3P	4P	合計	勝敗
A1	KOR	15	17	28	26	86	○
B2	TPE	17	9	27	18	71	●

グループ	チーム	1P	2P	3P	4P	合計	勝敗
B1	JPN	14	15	17	22	68	○
A2	CHN	18	8	10	27	63	●

第１ピリオド

互いにマンツーマンディフェンスでスタート、中国の得点が先行する。やや硬くなった日本はミスを連発し一時は２－１１とリードを許す。その後日本は、#15 竹内の連続得点や#9 折茂の３Ｐシュートで１１－１１に追いつくが、中国は#14 シューの連続得点で１４－１８とし、中国リードで終わる。

第２ピリオド

日本はアウトからのシュートが決まらず点差が詰まらない状況でガードを#７五十嵐に代え、ナンバープレーから#5 山田のシュートが決まると、#6 桜井のダンクシュートが出て流れをつかむ。２点差に詰まったところで中国がタイムアウトをとり、ディフェンスをゾーンに変えるも#6 桜井のシュートが決まって同点となる。日本はさらに#9 折茂の３Ｐシュートが決まって２９－２６の３点リードで前半を終了。

第３ピリオド

日本の勢いは止まらず、#6 桜井の速攻や#9 折茂の３Ｐシュートなどで得点を重ねる。中国も負けじと攻めるが、攻撃に勝った日本は４６－３６と１０点差をつけてこのピリオドを終わる。

第４ピリオド

開始３分、中国の連続得点で４８－４７の１点差となる。日本は#10 竹内のシュートや#6 桜井の速攻などで得点し一進一退となる。残り３分を切ったところで#7 五十嵐の３Ｐシュートで４点リードするが、中国もバスケットカウントで１点差にする。日本は#15 竹内のシュートで３点差にすると中国がファウルゲームを仕掛けてくる。最初のフリースローこそ入らなかったが、その後は#8 柏木がすべて決めて６８－６３で日本が接戦をものにした。

この結果、日本は決勝に進出し２位以上が確定、この時点で８月に開催されるアジア選手権大会への出場権を獲得した。

決勝戦

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
ＪＰＮ	19	18	12	9	58	●
ＫＯＲ	19	19	15	15	68	○

第１ピリオド

韓国が出だしなかなかシュートの決まらないうち、日本は#15 竹内の連続シュートなどで１０－５とリードする。韓国のタイムアウト後、韓国はシュートが入り始めるが、日本も#10 竹内、#15 竹内のインサイドで応戦し、１９－１９の互角で終わる。

第２ピリオド

韓国は連続３Ｐシュートが入り一歩リードし、３０－２３になったところで日本がタイムアウト。その後日本は厳しいディフェンスで韓国にシュートを打たせない。タイムアウト後の４分間をフリースローの２点に抑える一方#5 山田のリバウンドシュートで逆転する。韓国は残り２分にシュートが決まり再逆転、３８－３７の１点韓国リードで前半を終わる。

第３ピリオド

両チームとも激しいディフェンスで楽にシュートを打たせず、開始から３分間フィールドゴールが決まらない。こう着状態から先に抜け出したのは韓国で、６点リードする。日本は#7 五十嵐の速攻や#9 折茂のミドルシュートなどで追いすがり、５３－４９の４点韓国リードで終わる。

第４ピリオド

日本は３Ｐシュートで追いつこうとするが、逆にスティールから韓国に速攻を決められ、ペースをつかめない。韓国もフリースローを落とすなど点差は広がらなかったが、#15 キムの３Ｐシュートで６４－５７となったところで日本がタイムアウト。その後日本は３Ｐを打つがこれが決まらず、韓国にリバウンドを取られて逆に差が広がり６８－５８の１０点差になってしまう。韓国はそのまま逃げ切って優勝、日本は準優勝となった。

[大会最終順位]

優　勝	ＫＯＲ	韓　国
準優勝	ＪＰＮ	日　本
第３位	ＣＨＮ	中　国
第４位	ＴＰＥ	チャイニーズ・タイペイ
第５位	ＨＫＧ	香港・チャイナ
第６位	ＭＧＬ	モンゴル

６月１０日から愛知県協会の協力により始まったこの大会は１４日で閉幕したが、期間中延べ９,３００名余りの観客動員となり、最終日の決勝戦は文字通り超満員となった。

日本は予選ラウンドでチャイニーズ・タイペイに快勝し、決勝ラウンド１回戦で中国に競り勝った実績は大きい。中国は今回のアジア選手権開催国ゆえ出場権が与えられていて若手中心のメンバーだったが、長年にわたって勝つことができなかった中国を破っての準優勝は、これからの展望に結びつく。

男子日本代表チームとして、更なる強化を図り来るべきアジア選手権で３位以内を確保して、是非とも世界選手権大会へと歩を進めてほしいものである。

第２５回ＦＩＢＡアジア男子選手権大会

大会概要と競技方法決まる

［編集部］

去る６月愛知県小牧市において開催された、第１回東アジア選手権大会で準優勝した日本男子代表が出場する表記大会の概要と競技方法が決まった。この大会は来年トルコで開催されるＦＩＢＡ世界選手権大会の予選を兼ねており、アジアで３位以内に入れば出場権を獲得できる。

［大会概要］

日　程　　２００９年8月6日（木）～8月１６日（日）

開催地　　中国　天津市

参加チーム　１６チーム

１）開催国　　中国

２）２００８年ＦＩＢＡアジアスタンコピッチカップ上位５チーム

３）ＦＩＢＡアジアを構成する５つの地区（東アジア、東南アジア、中央アジア、西アジア、湾岸）で実施される各地区予選の上位２チーム（合計１０チーム）

出場国　　中国（開催国）

ヨルダン（２００８年ＦＩＢＡスタンコピッチカップ上位５チーム）

カザフスタン（２００８年ＦＩＢＡスタンコピッチカップ上位５チーム）

クウェート（２００８年ＦＩＢＡスタンコピッチカップ上位５チーム）

カタール（２００８年ＦＩＢＡスタンコピッチカップ上位５チーム）

インド（２００８年ＦＩＢＡスタンコピッチカップ上位５チーム）

韓国（東アジア１位）

日本（東アジア２位）

チャイニーズ・タイペイ（東アジア３位）※１

フィリピン（東南アジア１位）

インドネシア（東南アジア２位）

スリランカ（中央アジア）※２

ウズベキスタン（中央アジア）※２

イラン（西アジア）※２

レバノン（西アジア）※２

アラブ首長国連邦（湾岸１位）

※１　チャイニーズ・タイペイはバーレーン（湾岸２位）の出場辞退に伴う繰り上げ出場

※２　中央アジア、西アジアは地区予選参加チームがアジア選手権出場枠を超えなかったため、地区予選なく自動的に出場決定。

［予選ラウンド］

参加１６チームを、４チームずつの４グループに分けて予選ラウンドを行う。各チームはグループ内のチームと総当たりリーグ戦を行い、上位３チームがベスト８決定戦へ進出する。

予選ラウンドグループ分け

グループA	グループB	グループC	グループD
日本	ﾁｬｲﾆｰｽﾞ・ﾀｲﾍﾟｲ	中国	インドネシア
韓国	イラン	インド	ヨルダン
フィリピン	クウェート	カザフスタン	レバノン
スリランカ	ウズベキスタン	カタール	アラブ首長国連邦

［ベスト８決定戦］

予選ラウンドから進出してきた１２チームを６チームずつ２グループに分けて、リーグ戦を行うが、予選ラウンドで同一だったグループのチームとは対戦せず、予選ラウンドの成績をそのまま適用する。

ベスト８決定グループ分け

グループE	グループF
Ａ１位	Ｃ１位
Ａ２位	Ｃ２位
Ａ３位	Ｃ３位
Ｂ１位	Ｄ１位
Ｂ２位	Ｄ２位
Ｂ３位	Ｄ３位

この結果グループＥとＦの上位４チームが準々決勝へ進出する。下位２チームは９位～１２位決定戦へまわる。

［準々決勝戦］ベスト８による

グループＦ２位　ＶＳ　グループＥ３位・・・・・・ゲーム番号４９
グループＦ４位　ＶＳ　グループＥ１位・・・・・・ゲーム番号５０
グループＥ２位　ＶＳ　グループＦ３位・・・・・・ゲーム番号５１
グループＥ４位　ＶＳ　グループＦ１位・・・・・・ゲーム番号５２

組み合わせ対戦方式は、ＥグループとＦグループのそれぞれ１位は相手グループの４位と対戦し、それぞれ２位は相手グループの３位と対戦し、勝った４チームが準決勝へ進出する。敗者４チームは５位～８位決定戦へまわる。

［準決勝戦］

ゲーム番号４９の勝者　ＶＳ　ゲーム番号５０の勝者
ゲーム番号５１の勝者　ＶＳ　ゲーム番号５２の勝者

［決勝戦］

当然のことながら準決勝で勝った２チームが決勝戦に進出して世界選手権大会の出場権を獲得し、敗者は３位決定戦へまわる。（アジアにおける世界選手権への出場枠は３）

以上のように今回から男子アジア選手権大会の競技方法が新方式となり、日程、対戦チームを含めて相当厳しい戦いとなることは必須だろう。

東アジアで２位だった男子日本代表チームは、更なる強化を図って是非とも世界選手権大会の出場切符を手にしてもらいたいものである。

デビッド Ａ ホップス・ヘッドコーチ解任へ

東アジア選手権大会以降、体調不良を訴えていた男子日本代表チームヘッドコーチのデビッド Ａ氏は、その後も健康状態が快復しないため、７月１０日をもって契約を解除された。

替って日本代表チームヘッドコーチには、男子強化部長の倉石平氏が７月５日付で就任、８月６日から開催されるアジア選手権大会は倉石氏がヘッドコーチとして指揮を執ることになった。

倉石　平　氏

昭和３１年（1956）新潟県出身、５３歳
昭和５０年（1975）早稲田実業学校高等部卒業
昭和５４年（1979）早稲田大学教育学部（体育学専修）卒業
昭和５４年から８年間熊谷組チームで選手として日本リーグに参戦
昭和６３年（1988）から５年間日本リーグ熊谷組ヘッドコーチ、
この間日本リーグや全日本総合などで３回優勝
平成　６年（1994）から３年間日本リーグ大和証券ヘッドコーチ
平成１３年（2001）から３年間日本リーグ日立サンロッカーズヘッドコーチ
現在日本協会理事

第２３回ＦＩＢＡアジア女子選手権大会

開催期日と開催場所決定

［編集部］

今年６月にチャイニーズ・タイペイで開催予定だったこの大会は、開催国が開催を返上したため開催日が未定となっていたが、このたび開催地と日程があらためて決定された。

今大会は、来年チェコで開催される第１６回ＦＩＢＡ世界選手権大会の予選をかねており、上位３チームにアジア代表として出場権が与えられる。

第２３回ＦＩＢＡアジア女子バスケットボール選手権大会

開催日程　２００９年9月１７日（木）～9月２４日（土）
開催地　　インド・チェンナイ

これを受けて日本協会は、一時中断していた女子日本代表チームの強化を再開することにし、世界選手権出場へ向けて再び強化合宿が始まる。

ＷＪＢＬのシーズンは9月２５日から開催されるので、アジア女子選手権に出場した選手は開幕戦に間に合いそうもない。

ＷＪＢＬでは、こうした事情に配慮して、9月２５日の富士通対ＪＯＭＯの開幕戦を延期することを決定した。したがってＷＪＢＬの開幕は9月２６日（土）からとなる。

なお、ＷＪＢＬのリーグ戦スケジュールは、次号にて発表いたします。

女子Ｕ－１９日本代表チーム世界選手権へ

［編集部］

昨年１１月に開催された、女子Ｕ－１８アジア選手権大会で優勝した日本代表は、７月２３日（木）からタイ・バンコクで開催されるＦＩＢＡ Ｕ－１９ 女子バスケットボール世界選手権大会に出場する。

このほど、その世界選手権大会の概要が下記の通り決まり、日本代表チームは１次、２次の強化合宿を経てタイへ出発した。

［女子Ｕ－１９世界選手権大会概要］

日　程　　２００９年7月２３日（木）～8月２日（日）

開催地　　タイ・バンコク

出場チーム　１６チーム

タイ（開催国）

マリ（アフリカ１位）、チュニジア（アフリカ２位）

アメリカ（アメリカ１位）、カナダ（アメリカ２位）、ブラジル（アメリカ３位）

アルゼンチン（アメリカ４位）

日本（アジア１位）、中国（アジア２位）、韓国（アジア３位）

リトアニア（ヨーロッパ１位）、ロシア（ヨーロッパ２位）、チェコ（ヨーロッパ３位）、フランス（ヨーロッパ４位）、スペイン（ヨーロッパ５位）

オーストラリア（オセアニア１位）

予選ラウンドグループ分け

グループＡ	グループＢ	グループＣ	グループＤ
アルゼンチン	ブラジル	カナダ	中　国
オーストラリア	チェコ	日　本	マ　リ
フランス	リトアニア	ロシア	スペイン
韓　国	タイ	チュニジア	アメリカ

競技方法：［予選ラウンド］

４チームずつ４つのグループに分かれ、１回戦総当たりリーグ戦を行う。

各グループ上位３チーム（合計１２チーム）が２次ラウンドへ進む。

［２次ラウンド］

６チームずつ２つのグループ（ＥとＦ）に分かれ１回戦総当たりのリーグ戦を行う。ただし予選ラウンドで対戦したチームとは戦わず、成績はそのまま持ち越され、各グループの上位４チームが準々決勝へ進む。

［準々決勝］

トーナメント方式で、それぞれのグループの１位と４位、２位と３位が対戦する。勝ち上がった４チームは準決勝へ進む。

［準決勝・決勝］

セオリーどおり準決勝は２チームずつが対戦し、勝ったチームが決勝へ進む。

［日本代表チーム］

主なスタッフ

	氏　名	所　属
団　長	荒　　順一	日本協会
スーパーバイザー	講武　達雄	神奈川県立旭高校
ヘッドコーチ	後藤　敏博	トヨタ自動車アンテロープス
アシスタントコーチ	梅嵜　英毅	山梨学院大学
アシスタントコーチ	茂木　卓矢	山形中央高校
通訳・マネージャー	佐藤　未保	日本協会

選　手

	氏　名	P	身長	年齢	所　属
1	岩橋　美帆	ＳＦ	１７９	１９	福岡大学　１年
2	伊藤　恭子	ＰＧ	１６１	１９	デンソーアイリス
3	間宮　佑圭	ＰＦ	１８３	１９	ＪＯＭＯサンフラワーズ
4	丹羽　裕美	Ｃ	１８０	１９	早稲田大学　１年
5	淀野　潮里	ＳＧ	１７０	１９	筑波大学　１年
6	深野　羅定咲	ＰＧ	１６５	１９	シャンソン化粧品Ｖマジック
7	元山　夏菜	ＳＦ	１８１	１８	シャンソン化粧品Ｖマジック
8	濱口　京子	ＰＦ	１８１	１８	アイシン・ＡＷウィングス
9	大沼　美咲	ＳＦ	１７６	１８	デンソーアイリス
10	鬼頭　真由美	ＳＧ	１７３	１８	大阪人間科学大学　１年
11	阿部　幸音	ＳＧ	１７０	１８	デンソーアイリス
	平　均		174.5	18.5	

Ｐ：ポジション　ＰＧ－ポイントガード　ＳＧ－シューティングガード
ＳＦ－スモールフォワード　ＰＦ－パワーフォワード
Ｃ－センター

都合により今大会は選手１１名で参加。

［予選ラウンド成績］

７月２７日現在の予選ラウンドリーグ戦の日本チームの成績は以下の通り。

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
日　本	27	18	18	22	85	○
チュニジア	11	19	24	10	64	●

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
ロシア	24	15	22	22	83	○
日　本	12	18	9	25	64	●

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
カナダ	22	20	16	15	73	○
日　本	13	10	7	21	51	●

この結果、日本は予選グループＣで３位となり、２次ラウンドに進出した。

［２次ラウンド成績］

７月２９日現在の２次ラウンドリーグ戦の日本チームの成績は以下の通り。

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
スペイン	19	14	23	25	81	○
日　本	12	13	15	17	57	●

チーム	１Ｐ	２Ｐ	３Ｐ	４Ｐ	合計	勝敗
日　本	19	19	19	21	78	○
中　国	19	14	19	18	70	●

スタッツ（ＳＴＡＴＳ）について

［編集部　坂本 博］

１．スタッツ（ＳＴＡＴＳ）とは

バスケットボールのテレビ放送などで最近よく耳にする、スタッツ（ＳＴＡＴＳ）という言葉をご存じであろうか。ＳＴＡＴＳという言葉は、以前の英和辞典などには載っていなかった単語で、語源は、ＳＴＡＴＩＳＴＩＣＳ＝統計　を短縮した略語であり、スポーツゲームなどに係わる数学的なデータの総称として紹介されるようになった。

バスケットボールでも年々様々なデータの解析バリエーションが出てきており、日本のテレビ放映でも、２Ｐ・３Ｐシュート率、リバウンド数、自由投率などごく一部を紹介するようになってきた。

本家のＮＢＡのスタッツは歴史的にも古くから存在し、質量ともに充実したデータが整備されていて驚異的である。そのデータはテレビ放映などでも随時紹介されており、内容も豊富で解りやすく解説され、インターネット上でも全世界に発信されている。

ゲームのスタッツは、今や選手個人やチーム情報を知る上で不可欠なものとなり、勝敗を占う方法などにも多角的な幅を持たせており、バスケットファンにも統計的な分析結果が広く理解されて普及してきている。

当然のことながらスタッツは、チームを統率するコーチ采配にも広く活用され、選手のすべての能力とデータの解析は情報戦には不可欠となっている。また、対戦相手チームのデータ分析は勝敗の分岐を決めることにもつながり、各種のデータ収集と分析は戦略的にも重要な要素となる。

最近国内で開催される一部の公式戦でも、各団体個別のインターネットなどでゲーム記録として発信しているが、発表している内容と基準には統一性がなく、選手個人やチームの累計データがないなど今後に課題を残しているようだ。

あらゆる面で立ち遅れた日本のバスケットボール界としては、スタッツのデータ採取方法や蓄積、記録方法などもバスケット界として統一を図り、ゲームデータなどの管理体制と基準を早急に整備し、権威のある公式スタッツとしての充実を期待したい。振興会としても技術的側面から何らかのアピールをしてもよいのではなかろうか。

２．スタッツの内容とＮＢＡの具体例

現在スタッツとして取り上げられているゲームデータは以下の項目が一般的である。

選手名（通常１５名）・スターティングメンバー・得点・３ＰＴ数・３ＰＴ成功率・２ＰＴ数・２ＰＴ成功率・自由投数・自由投成功率・出場時間・反則数・オフェンスリバウンド数・ディフェンスリバウンド数・リバウンド合計・スティール数・ターンオーバー数・アシスト数・タイムアウト数・ランニングスコアのチームと個人の合計データなどがある。

具体例として、今最も注目されるＮＢＡを代表するスター選手だった「マイケル ジョーダン」と現役選手の「コービー ブライアント」の成績記録をＮＢＡのサイトから検索し、

当時インカレがＴＶ放映されたが、そのスポンサーは三菱電機であり、賞品などを含めて三菱電機には大変なお世話になった。

５）筑波大・日体大の定期戦

両大学の学生は、歴史的にも体育・スポーツの同好の友であり、私はかねてから定期戦の必要性を感じていた。たまたま日体大が全日本選手権大会で第３位になったことを機に、栗本学長に筑波大との定期戦について相談したところ賛同を得、ただちに筑波大の故鈴木正三氏に連絡をしていただいて実現の運びとなった。栗本学長は東京高等師範学校（現筑波大）体育科の出身で、後の東京文理大バスケットボール部後援会長をも務められたこともあって、両大学が日本の体育・スポーツの発展に寄与してきたことを認められた。その後栗本学長は定期戦の開催委員会の会長に就任、筑波大からは前川学部長が副会長として就任され、両大学をあげて将来共に手を携え、日本のバスケットボール発展に寄与する土壌作りが進められた。

定期戦は平成１７年春に４０回を数え、関東の大学や社会人たちに春のシーズンインを告げる役割を果たしていると思っている。

６）日本協会の役員など

日本協会の役員は、昭和３２年（1957)、公認審判員資格の取得から始まった。昭和３９年（1964）の東京オリンピックでは施設委員を務めた。オリンピック後の昭和４０年（1965）から理事を委嘱され、平成元年（1989）に退任するまでの２４年間どちらかといえば技術関係の分野を担当してきたので、以下に箇条書きしてみる。

・昭和４０年　技術副委員長、コーチング小委員会委員長
・昭和４２年　ユニバー東京大会女子チームコーチ（石田正一監督）成績第２位
・昭和４３年　第２回アジア女子選手権コーチ（台北、小森正巳監督）成績第２位
・昭和４５年　第３回アジア女子選手権団長（クアラルンプール、尾崎正敏監督）初優勝
・昭和４６年～５２年　女子強化委員長
・昭和４６年　第６回女子世界選手権団長（サンパウロ、尾崎正敏監督）成績第５位
・昭和４９年　第５回アジア女子選手権団長（ソウル、尾崎正敏監督）成績第２位
・昭和４９年　アジア競技大会監督支援役員（テヘラン、尾崎正敏監督）優勝
・昭和５０年　第７回女子世界選手権団長（コロンビアカリー、尾崎正敏監督）準優勝
・昭和５２年～５３年　競技部長
・昭和５４年　女子強化委員長再任
・昭和５５年　モスクワオリンピック予選団長（ブルガリア、中村和雄監督）予選敗退
・昭和５８年～平成元年　日本ユニパーシァード委員
・昭和６０年～平成元年　コーチコミッティー
・昭和６３年　社会体育指導者育成委員長、地域スポーツ指導員、競技力向上コーチカリキュラムを作成し文部省へ提出
・平成元年　日本協会参与
・平成２年　日本協会の競技力向上コーチ育成事業認可に尽力、日本協会常任顧問
・平成４年　社会体育指導者育成委員長再任、第１回競技力向上Ｃ級コーチ講習会開催

＜バスケットボール界への提言＞

日本のバスケットボールを更に発展させるため、バスケットボールの技術に関することについて、下記項目を中心として提言したい。

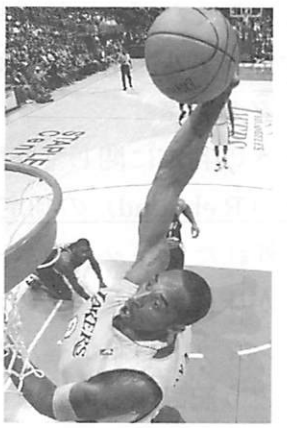
・バスケットボールの本質的属性を原理、原則とし攻撃や防御に関する技術体系の追求
・速攻、マンツーマンディフェンスやゾーンディフェンスに対する攻撃法の体系化
・技術向上の指標となるカテゴリー（熟練性の程度をとらえる運動学独自の概念）の追求

［振興会副会長］

その一部を次に紹介してみる。

記　号	項　　目	マイケル ジョーダン	コビー ブライアント	備　　考
	ＮＢＡの選手期間	１９８４～２００３年	１９９６～２００９年	
	年　　数	１５年	１４年	合　計
Ｇ	出場ゲーム数	1072G	948G	〃
ＧＳ	内スターティング数	1039G	800G	〃
ＭＰＧ	出場時間（分）	38.3分	36.4分	1試合平均
ＰＴＳ	得点合計	32,292	23,820	総合計
ＰＰＧ	1試合平均得点	30.1	23.8	1試合平均
ＦＧ％	野投率（３Ｐ+２Ｐ）	49.7%	45.5%	〃
３Ｐ％	３Ｐ％	32.7%	34.1%	〃
ＦＴ％	フリスロー％	83.5%	84.0%	〃
ＲＰＧ	リバウンド合計	6.2	5.3	〃
ＯＦＦ	オフェンス	1.6	1.2	〃
ＤＥＦ	ディフェンス	4.7	4.1	〃
ＡＰＧ	アシストパス	5.3	4.6	〃
ＢＰＧ	ブロック	0.83	0.5	〃
ＴＯ	ターンオーバー	2.8	2.9	〃
ＰＦ	ファール	2.6	2.7	〃

マイケル　ジョーダン



コービー　ブライアント

資料）http://www.nba.com/

３．補足　＝　スタッツを独自に確立するための試案

独自のスタッツを推進したい場合の方法と課題などを取り上げてみる。

①データベースの構築について

ゲームデータは各個人・項目別に記録として蓄積されるが、将来の作戦データ源としての確立が必要となり、データ採取をゲームのとき１度実施すれば、あとはパソコンでの処理となり、データベースとしての加工は既存の汎用ソフトを利用すれば容易にでき、大量データ集計の煩わしさは特に発生しない。

さらに１チームのデータ管理だけではなく、協会など競技団体毎の全チーム全員の記録、または登録選手全員の項目別年間記録ランキング表などの加工についても、その迅速な処理性についてはパソコンが最も得意とするところであり、今後これらに対する取り組みはバスケットボールの技術向上に必須となるであろう。

②スコア集計上の問題と区分

バスケットボールゲームの様々なプレー・アクションを１度の手間のみで記録し、その場で集計結果を即座に見やすく表示する。

さらにそのデータを蓄積して将来のゲーム作戦資料としていかに活用させるかが狙いであるため、集計のための手段をセットするに多少の手間がかかる。従来法よりもパソコンなどの習熟が必要となるが、効果は十分期待できるものである。

また、さまざまなプレー・アクションの分類については、記録上のものと、コーチング上必要なものと詳細になっていく可能性が生じるため、記録対象とする項目の細分化の設定にも対応できるよう配慮したい。

従って、上記のことからスコアシートが自チーム用か、または競技団体用かでは設計とデータの種類などが若干異なってくると推察されるので、項目の組み替えは容易にできるようにしたい。

③スコア記録上の基準

現行の公式戦では、スタッツスコアラーがゲーム時に発生するショット以外のデータについて明確で権威ある基準のもとに記録しているかは未調査で不明であるが、今後の方式では、採取データの種類も多くなるため、データの範囲に関する規定は競技規則と同等の規則を作成し、新たなデータ管理規則に類する制定と教育が不可欠となろう。さらには「スタッツ・マニュアル」的なものの制定が必要になろう。

④ゲームデータの判定

ゲームデータの判定に関して疑問があるのでその一部を例示してみる。

<u>リバウンド（Rebound）の判定</u>

Q：　外れたショットのボールがリングやバックボードに当たって跳ね返り、ボールが床に触れた後そのボールを取得した場合、リバウンドと記録するか？

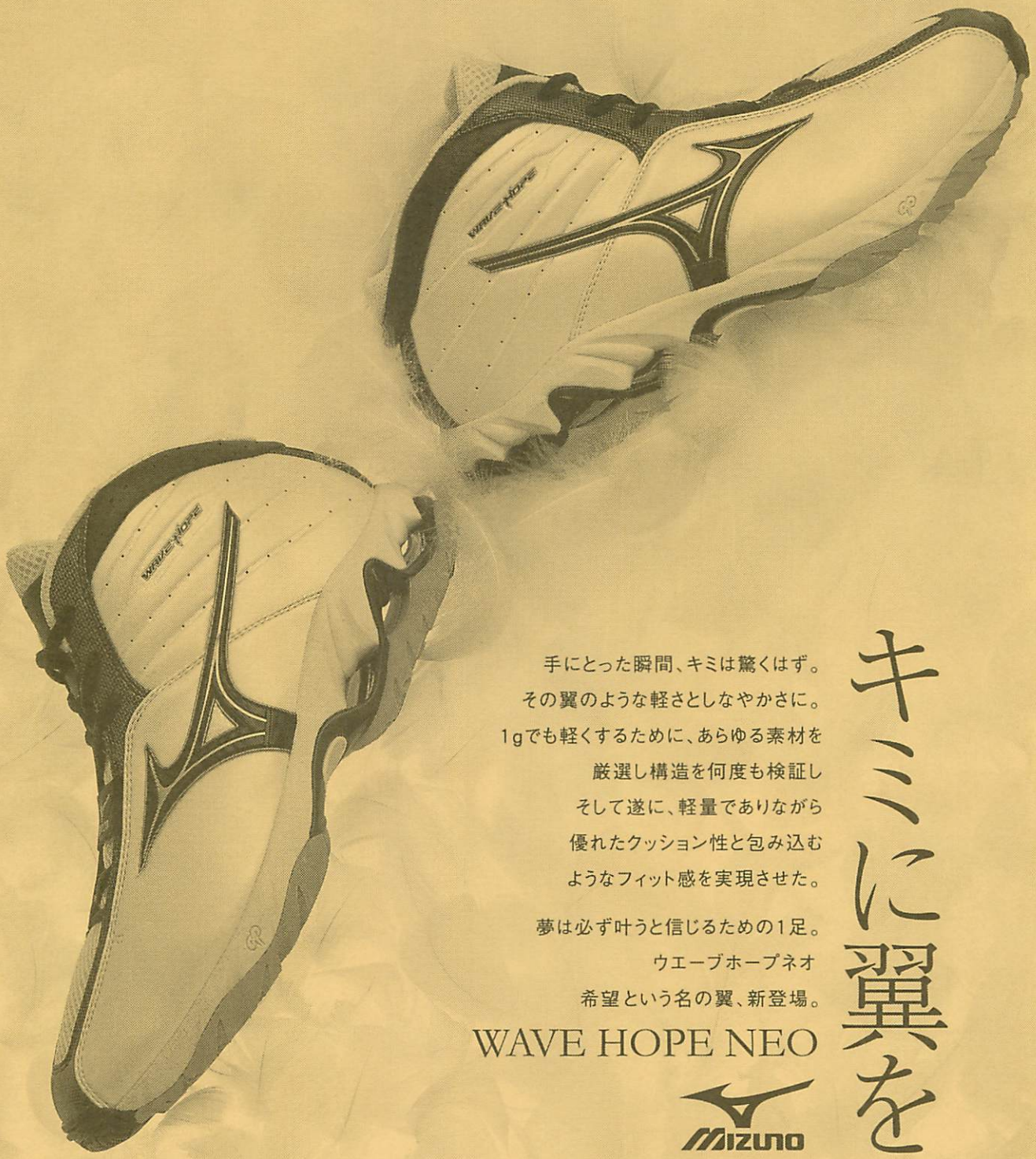
Q：　ショットしたボールがエアーボールとなり、ディフェンス側が取得した場合はどう記録するのか？

<u>ターンオーバー（Turn Over）とスティール（Steal）の種類と取扱い</u>

ターンオーバーとは、オフェンス側がボールをスティールされたり、バイオレーションを犯したりして、シュートを打つ前に攻撃権が相手に移ることであるが、データ記録上はどうするのか。ターンオーバーとスティールは、攻撃側と防御側とが相対する動作なので、記録上は１個または２個のデータが発生するが、それをどう記録に反映させるのか？

<u>チャージングやオーバータイムはターンオーバー？</u>

８秒や２４秒オーバータイムはチームのターンオーバーだが、選手のターンオーバーにはならないのか？



キミに翼を。

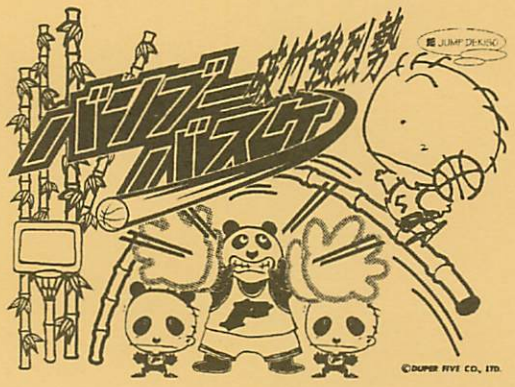
手にとった瞬間、キミは驚くはず。
その翼のような軽さとしなやかさに。
1gでも軽くするために、あらゆる素材を
厳選し構造を何度も検証し
そして遂に、軽量でありながら
優れたクッション性と包み込む
ようなフィット感を実現させた。

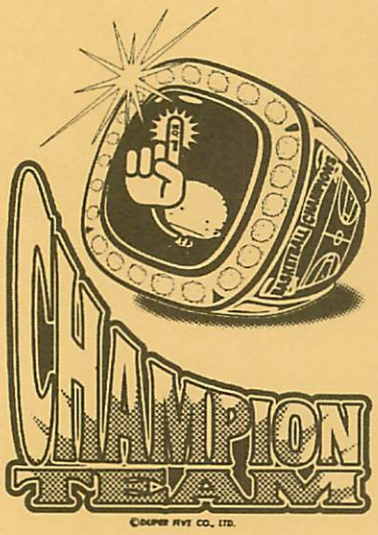
夢は必ず叶うと信じるための1足。
ウエーブホープネオ
希望という名の翼、新登場。

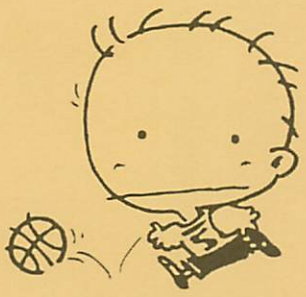
WAVE HOPE NEO

MIZUNO

WAVE HOPE NEO ¥14,490（本体¥13,800） ●記載価格は、消費税込みのメーカー希望小売価格です。（ ）内は消費税抜き本体価格です。 ● www.mizuno.co.jp ● 0120-320-799

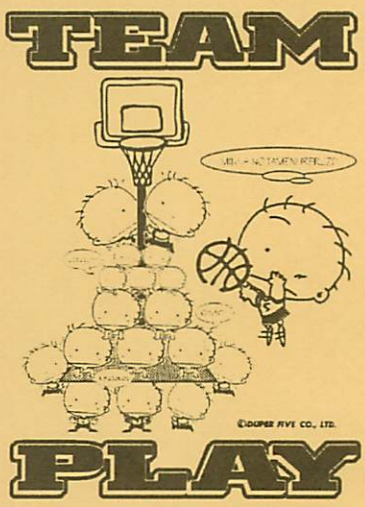


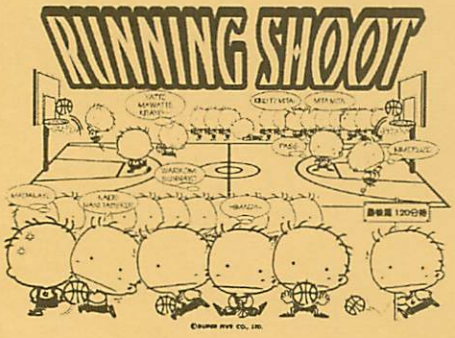


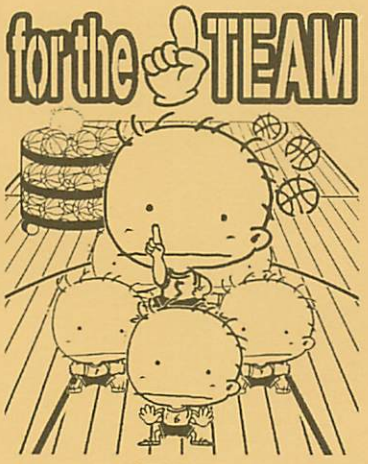


DUPER®

表現の自由人。







DUPER®

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL．(03)3632-7045（代表）
FAX．(03)3632-8327

URL ：http://www.duper.co.jp　E−mail: info@duper.co.jp